

This church is originally built at Barrowford England in the 19th century. But it was demolished 129 years after its birth due to the land readjustment of the town. All the bricks were numbered and brought to Hachioji and the church was rebuilt as it had ever been. With very tall roundarch stained-glass windows, marble floor and very high vault permit us to play the so-called early music on the organ and other historical instruments such as Italian spinet, arclute and stringed instruments in the style of the period. We are now pleased to announce a concert held in this very fine European architecture. The organ which has been used in the series of the concerts is a four-stop chamber organ built by Mr Selway Robson, who lives in South Africa. He builds all his instruments with African wood. It has small bellows under the keyboard and is blown by means of foot pumping instead of electrical blowing.

We are happy if we could see you at the concert.

高い天井、明るいステンドグラス。広い大理石の床。このチャペルはもともと1867年英国 Barrowford に建てられたハイヤーフォードメソジスト教会。築後129年目にして、区画整理に合い、取り壊される事に。取り壊しに際しては、レンガ一個一個に番号を付け八王子へ移送後、細部まで元通りに建てられました。このチャペルではオルガンや各種弦楽器等の音が空間いっぱいに広がります。このすぐれたヨーロッパ建築の響きに支えられて初めて、比較的初期の音楽、およそ17世紀以前の音楽の演奏が可能となるばかりでなく、私達が普段の生活の中に生の音楽をもう一度置く、一つのきっかけを提供する事と存じます。気軽なコンサートですので、ぜひ、多くのお子さんにもいらして頂きたい、と思っております。何歳の方でもお越し下さい。市民の手によるささやかな会ではございますが、ご案内申し上げます。

Una passeggiata d'organo n.11

オルガンの散歩 その11

Naoya Otsuka Harpsichord Recital

大塚直哉 チェンバロ リサイタル

Tuesday 12 December 2006 6:30PM 12月12日(火) pm6:30開演

program

Girolamo Frescobaldi フレスコバルディ

Toccata prima 100 partite sopra passacagli (1627) トッカータ第1番、100のパーティータより

Giovanni Picchi ピッキ

Toccata in d トッカータ 二調

他

イタリアンチェンバロ 大塚直哉

東京芸術大学大学院チェンバロ専攻及び、アムステルダム音楽院を卒業。99年帰国後は東京を拠点にチェンバロやクラヴィコード、オルガン奏者として日本、ヨーロッパの各地で活動を行っている。「バッハ・コレギウム・ジャパン」、「東京ソリスト」他のチェンバロ奏者として活躍する一方、自身がプロデュースするコンサートでは毎年秋、河口湖円形ホール、東京オペラシティ近江楽堂他にて、バロック時代の室内楽作品に意欲的に取り組み好評を得ている。東京芸術大学および神戸松蔭女子学院大学非常勤講師。大塚直哉ホームページ <http://homepage3.nifty.com/utremi/>

~~~~ 使用するイタリアンチェンバロについて ~~~~

20世紀にイギリスで発見された時は、鍵盤も無く、響板も低音側の半分はありませんでした。これを1950年代にHugh Goughによって、また、2000年にAlan Gottoによって修復され、さらに今年、宮城県の子供の会の手により、ジャックと呼ばれる、弦を弾く部分が、なしの木でヒストリカルな形状に作り直され、また、鳥の羽より削ったつめが用いられました。この楽器のネームボードには Vincentius Pratensis IDLXXXXIIIと書かれています。作者名のところはイタリア語にすれば、Vincenzo da Pratoであり、プラートのヴィンチェンツォという意味です。なお、プラートはフィレンツェの近くの町です。残っていた高音側の響板には8foot 2列分のブリッジピンがありますが、レストブランク(チューニングピンが打ち込まれる厚手の木)には4foot(1オクターブ高い)と思われるチューニングピンの穴の列があり、一時8foot+4footの楽器であったと思われます。底板、響板、鍵盤、およびアウターケースはイギリスで修復時に付加されたものです。

直接チャペル正面の階段からお入り下さい。

## Absolutely Free

No booking required

入場無料 予約は不要です。

もし、お楽しみ頂けましたら、コンサート終了後、入口の募金コーナーにお気持ちを入れて下さいますと幸いです。

主催 ; オルガン散歩の会

問い合わせ ; 042-635-3784 山野辺

042-664-0802 森

JR八王子駅北口より徒歩15分、京王八王子より徒歩10分。(バス利用の場合はJR八王子、京王八王子から日野方面行きバスで大和田バス停下車。)

